

秋の深まりとともに、子どもたちの表情にも自信と誇らしさが見え始めています。先日の学習発表会では、各学年が工夫を凝らした発表を通して、日々の学びの成果を堂々と披露しました。発表の内容はもちろんのこと、仲間と協力し合う姿、緊張しながらも一生懸命に伝えようとする姿、そして終えた後の達成感に満ちた笑顔——そのすべてが、子どもたちの確かな成長を物語っていました。

学習発表会は、単なる「見せる場」ではなく、「学びを深める場」でもあります。自分の考えを言葉にし、相手に伝える力。仲間と意見を交わしながら一つの目標に向かう力。これらは、これからの社会を生きるうえで欠かせない力です。

観覧された皆様には、温かい拍手と励ましの言葉をいただき、心より感謝申し上げます。子どもたちは、皆様の応援を力に変えて、また一步前へと進んでいきます。

これからも、子どもたちの「今しかない瞬間」を大切にしながら、学校全体で成長を支えてまいります。引き続き、皆様のご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

校長 池田 圭子

1人ひとりが輝いた学習発表会

1年生

ケーキショップ
わんだふる

2年生

まよなかの
サンタクロース

3年生

みんなの
ハーモニー

4年生



何でも引受株式会社

5年生

秋天の合奏
しゅうてん アンサンブル

November

11月の行事予定



- | | |
|--------|------------|
| 3日(月) | 文化の日 |
| 4日(火) | 交通安全の日 |
| | 挨拶いっぱい運動の日 |
| 5日(水) | 職員会議 |
| 7日(金) | 第3学年見学学習 |
| 14日(金) | クラブ活動 |
| 19日(水) | 足寄町教育研究大会 |
| 23日(日) | 勤労感謝の日 |
| 24日(月) | 振替休日 |
| 27日(木) | 第5学年食育授業 |
| 28日(金) | 児童会 |

6年生



劇 モモ

全国学力・学習状況調査 結果分析と対策

調査目的：この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上を目的としており、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象とした悉皆調査（全数調査）として実施されています。

＊全国的な学力・学習状況の把握と分析：児童生徒の学力や学習状況を全国規模で把握し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。

＊学習指導の充実と改善：学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立てます。

＊継続的な検証改善サイクルの確立：上記の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクル（Plan-Do-Check-Action）を確立します。

1. 調査結果の全体的な概要

本校の児童の学力状況は、国語、算数、理科のすべての教科において、北海道や全国の公立学校の平均を下回る結果となりました。この結果を踏まえ、さらなる学力の定着に向けた取り組みを推進してまいります。

【全体的な傾向と共通課題】

児童の学力を「知識・技能」と「思考力、判断力、表現力等」（考える力）に分けて分析したところ、以下の共通課題が浮き彫りになりました。

1. 基礎的な「知識・技能」の確実な定着:

算数や理科において、基礎的な知識や技能の一部がまだ十分定着していないことが確認されました。

2. 「思考力、判断力、表現力等」（考える力）の不足:

全教科を通じて、複数の情報や知識を関連付けて論理的に考えたり、自分の考えや解決方法を筋道立てて言葉や式で書き表す記述力に、大きな課題が見られます

国語

2. 教科別分析と課題

成果

聞く力と内容の把握

インタビューの様子を聞いて、話し手が特定の発言をした目的を理解する力など、「聞くこと」の領域で安定した定着が見られます。特定の設問では、全国平均を上回る結果も見られました。また、文章を読んで、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える力も比較的安定しています

課題

言葉の知識の不足

文章中で使われている言葉の詳しい特徴や使い方に関する事項（知識・技能の一部）に課題があります。記述力：複数の資料（情報）を読み比べ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、集めた情報を理由としてまとめて論理的に書き表す力が全国平均を大きく下回っています。これは、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる力にも課題があることを示唆しています

算数

成果

基礎計算とデータ把握

与えられた資料から必要な情報を選び計算を行う問題など、基礎的な知識・技能の一部は全国平均を上回る定着が見られます。棒グラフから項目間の関係を読み取る力も比較的高いです

課題

応用力と記述力

「思考力、判断力、表現力等」の分野で全国平均と大きな差があり、特に記述式問題が極めて低い定着率です。伴って変わる二つの数量の関係に着目し、日常生活に即した問題を解決するために必要な事柄を判断し、求め方を式や言葉を用いて記述する力（例：使いかけのハンドソープの残量を調べる問題）が不足しています

理科

成果 「地球」領域の理解
水の結露や蒸発について、温度による状態変化の知識と関連付けて適切に説明する力は定着しています。特に、海にある氷が溶けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて知識を概念的に理解している力は、全国平均を大きく上回る結果となりました。

課題 実験条件の制御と記述力
ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験のように、科学的な探究活動において、結果を導くために必要な「条件を制御した解決の方法」を発想し、選ぶ力に極めて大きな課題が見られます。また、学んだ知識を根拠に現象を説明する記述力も強化が必要です。

3. 今後の課題と学校での主な取組

本調査結果から導かれた主な課題をふまえ、足寄小学校では以下の指導を行います。

国語 記述力のアップ→PISA式読解力、新聞記事等を用いた読解力向上による記述力アップ
文章全体の構成を捉えた上で、複数の集めた情報（材料）を分類・関係付け、論理的な段落構成で記述する学習を重点的に行い、要旨を把握し表現する力を高めます。

算数 説明力・論理的思考力アップ→四則計算力の強化と国語科の記述力アップによる論理的思考力向上
単に計算を行うだけでなく、「伴って変わる二つの数量の関係」に着目させ、問題解決に必要な事柄を判断し、解決過程を筋道立てて式や言葉で記述する指導を重点的に行います。

理科 実験・探究指導
結果を得るために、観察や実験の方法が適切であったかを検討し表現する、また、科学的な事柄について、知識を根拠に現象を説明する力をつけるため、実験の「条件設定」や「制御」に関する学習を繰り返します。

4. ご家庭との連携のお願い

会話や学習の機会を通じて、児童が「なぜそうなるのか」「どうやったのか」を自分の言葉で説明する機会を増やしていくことが、論理的な思考力と表現力を育成するために極めて重要です。学校生活（授業や休み時間等）だけでなく、ご家庭でも会話の中で「なぜ？」「どうして？」を児童自身が話せるよう、問いかけをお願いいたします。

説明と要約

本やニュースを読んだ後、「一番言いたいことは何か（要旨）」や「なぜそう思ったのか（理由）」を必ず口頭で説明してもらう。

情報を整理し、文章構成を捉えて要旨を把握する力を養う

問題解決過程の言語化

算数の問題や日常の問題（買い物や料理など）について、答えだけでなく、「どうやってその答えを導いたか」を式や言葉で表現、または説明してもらう。

伴って変わる数量の関係に着目し、求め方を記述する力を強化

観察実験の「条件」の意識

身の回りの現象（水が蒸発する、物が温まる）を見た際、「これは何が変わったから、この結果になったのか」と原因となる条件の違いを意識して話し合う機会を設けてください。

実験の条件を制御する方法や、知識を根拠に現象を説明する力を養う

学校とご家庭が連携し、児童の考える力を着実に伸ばしていくために、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

次号は児童質問紙について
お知らせします



生成AIとともに広がる、子どもたちの新しい学び

足寄町立足寄小学校長 池田圭子

生成AIとは？新しい学びの道具

最近、テレビや新聞でも話題となっている「生成AI」。少し難しく聞こえるかもしれませんが、私たちにとっては「新しい学びの道具」であり、子どもたちにとっては「学びのeパートナー」となり得る存在です。

生成AIとは、人の問いかけに応じて文章や絵、音声などを作り出す仕組みです。たとえば、子どもが「昔の北海道のくらしについて調べたい」と尋ねると、瞬時に情報を整理して見やすく提示してくれます。また「作文を書いたけれど、もっとよい表現はあるかな」と相談すると、言葉を磨くヒントをくれる。こうしたやり取りを通じて、子どもは「なるほど、こんな言い方もあるんだ」と学びを深めていきます。まさに一緒に学びを広げてくれる「eパートナー」と呼べる存在です。

AIとの向き合い方 考える力を育てるために

もちろん、AIが出した答えをそのまま使うのではなく、「どう活かすか」を子どもたち自身が考えることが大切です。

生成AIはあくまでも“先生のかわり”ではなく、“学びを支えるパートナー”。

「自分の考えとどう違うかな」「この答えの根拠はどこにあるのだろう」などと問い返すことで、子どもたちは主体的に学びを深めていくことができます。

情報の扱い方 正確さとマナーを大切に

一方で、情報の正確さや使い方のマナーも欠かせません。文部科学省は「生成AIの出力は参考の一つであり、最終的な判断は人間が行うべき」とし、「情報の真偽を確認する力を育むことが重要」と強調しています。学校では「AIがこう言っているけれど、どう思う？」といった対話を重ね、子どもたちが主体的に判断できるよう支援していく必要があります。

AIとともに 未来を生きる子どもたちへ

これからの時代、子どもたちはAIと共に学び、働き、暮らしていくことになります。AIを恐れるのではなく、正しく理解し、上手に使いこなすことが未来を生きる力につながります。保護者や地域の皆さまとも力を合わせて、子どもたちが安心してAIと向き合い、自分の可能性を広げられるようにしていきたいと思います。生成AIは、子どもたちの創造力を支え、学びをもっと楽しく、もっと深くする“eパートナー”。私たちはこれからも、一人ひとりの子どもがその力を活かし、自分らしい学びを見つけられるよう取り組んでまいります。どうぞ引き続き、本校の挑戦に温かいご理解とご協力をお願いいたします。

教育現場での活用が進む背景

文部科学省は、「生成AIは人間の能力を補助・拡張し、可能性を広げる有用な道具である」とし、「情報活用能力の育成を強化する必要がある」と明記しています。また、北海道教育委員会は「生成AIは子どもの探究心や創造力を引き出す手立てとなり得る」とし、道立学校向けに具体的な活用ガイドブックを作成しています。さらに、デジタル庁も「生成AIは未来を生きる子どもたちの新しい学びを支える可能性を持っている」と発信しています。

広がる学びの可能性

授業や家庭学習において少しずつ生成AIを取り入れることもできます。調べ学習の補助や、表現活動のアイデアづくり、さらには自分の考えを整理する手助けとして活用することで、子どもたちの学びはこれまで以上に広がりを見せています。たとえば、作文が苦手な子が「こんな書き出し方もあるんだ」と気づいて自信を持てるようになったり、自由研究で「もっと深く調べたい」と探究心を膨らませたり。小さな一歩ではありますが、子どもたちが前向きに学ぶ姿に、AIの力を取り入れることもできます。

家庭での関わり方 親子で一緒に考える時間を

ご家庭でも、「AIが答えてくれたけど、これって本当かな？」と親子で一緒に調べ直す姿が大切です。こうしたやり取りが、子どもたちの思考力や判断力を育てる大切な機会となってきます。